

# 平昌五輪目指し

## 松本で中山英子<sup>さん</sup>講演会

第145回サロンあがたの森は11日、松本市あがたの森文化会館で開いた。18年平昌五輪を目指すスケルトン選手

の中山英子さん(45、中央)が「五輪に魔物は棲(す)むか?」の題で、スポーツをめぐる昨今の問題や、自身の課題などを話した。



五輪の裏話も交えながら話す中山さん

中山さんは賭博やドーピングなどスポーツ

界で最近起きているさまざまな問題について「スポーツは正々堂々のイメージがあるが、勝てばいい、自分さえ良ければ手段を選ばない面がある」と指摘。

スポーツ文化は「人の心を育てるものであってほしい」とし、「自分の経験を生かしながら、喜び樂しめるスポーツのあり方を追求したい」と話した。

平昌五輪を目指す自身が直面する課題として、これまでスケルトンの競技連盟が行ってきた選手選考のあり方に疑問があり、「きちんとした公正な選考で正々堂々と戦う場がほしい。他の選手とともに、日本スポーツ仲裁

機構への申し立てを検討している」と話した。「40代で五輪を狙えるか」は、▽昨年、走り(スタート)のタイムが39歳のバンクーバー五輪の頃より上がっている▽滑走中、見えなかったものが見えるようになつてきた▽競技への集中の仕方や力を出し切るための自分の方法が見えてきたことを挙げ「もう一回、五輪を目指してみようと思う」と決意を語った。